

## 桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

桜島の昭和火口で、本日（28日）07時05分と10時10分に噴火が発生し、噴煙の高さは火口縁上3300mと3200mまで上がりました。

これらのことから、桜島の噴火活動は活発化する傾向と判断し、本日（28日）11時05分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2から3に引き上げました。

桜島の噴火活動は活発化するおそれがあり、昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

また、本日降灰調査を行い、桜島の北方向の広い範囲で降灰を確認しました。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

### ○活動概況

#### ・噴煙活動の状況(図1、図2)

昭和火口では、本日（28日）噴煙高度が3000mを越す噴火が2回発生しました。3000mを越す噴火は昭和火口が2006年に活動を再開して以来初めてです。本日07時05分の噴火では、噴煙が高さ3300mまで上がりました。10時10分には爆発的噴火<sup>1)</sup>が発生し、噴煙の高さは3200mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石が4合目（昭和火口より800から1300m）まで達しました。いずれも火砕流は発生しませんでした。昭和火口での7月の噴火回数は10回、爆発的噴火は1回でした。

南岳山頂火口では、7月5日に今年3回目の爆発的噴火がありましたが、過去の活動と比べて静穏な状況が続いています。

#### ・昭和火口周辺の状況(図6)

本日、国土交通省九州地方整備局の協力を得て実施した上空からの観測では、火口の形状に特段の変化は見られませんでした。

#### ・火山ガスの状況(図3)

本日行った二酸化硫黄の放出量は、一日あたり700～1,300トンとやや多い状態でした。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

※ この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。

・降灰の分布状況（図 7）

本日降灰調査を行い、加治木町、霧島市等の桜島の北方向の広い範囲に降灰が分布し、熊本県では球磨村まで降灰がありました。

・地震及び微動の発生状況（図 2）

火山性地震及び火山性微動の発生は、少ない状況が続いています。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、山体の膨張を示すような顕著な地殻変動は認められていません。

大隅河川国道事務所が設置した有村観測坑道の水管傾斜計による傾斜観測では、大きな変化は認められません。



図 1 桜島 10 時 10 分の噴火 2008 年 7 月 28 日 10 時 13 分 袴腰（山頂火口の西約 5 km）より撮影  
・ 10 時 10 分には爆発的噴火が発生し、噴煙の高さは 3200m まで上がり、弾道描いて飛散する大きな噴石が 4 合目（昭和火口より 800 から 1300m）まで達しました。

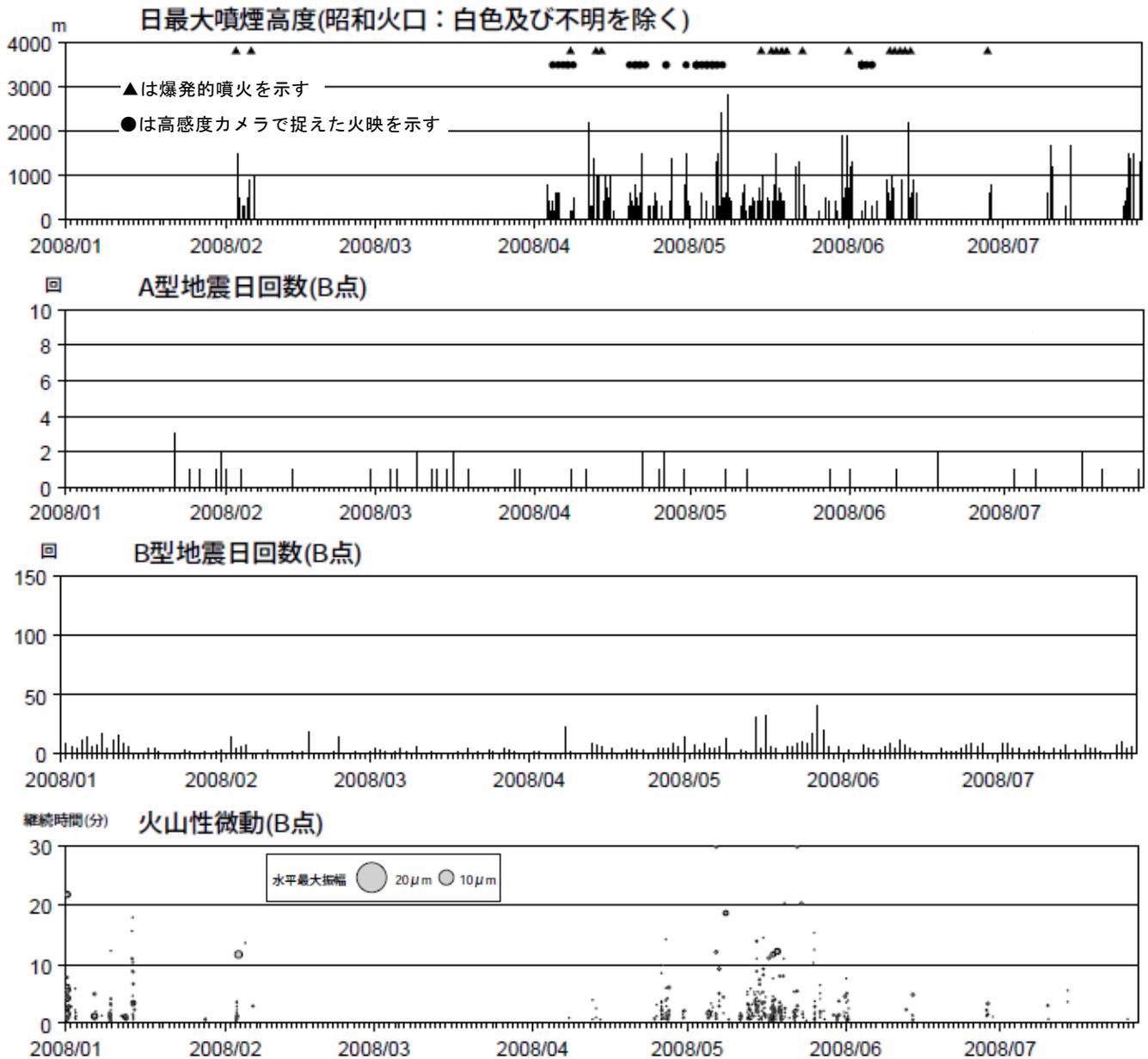


図2 桜島 火山活動経過図 2006年7月1日～2008年7月27日  
・火山性地震及び火山性微動の発生は、7月以降少ない状況が続いています。

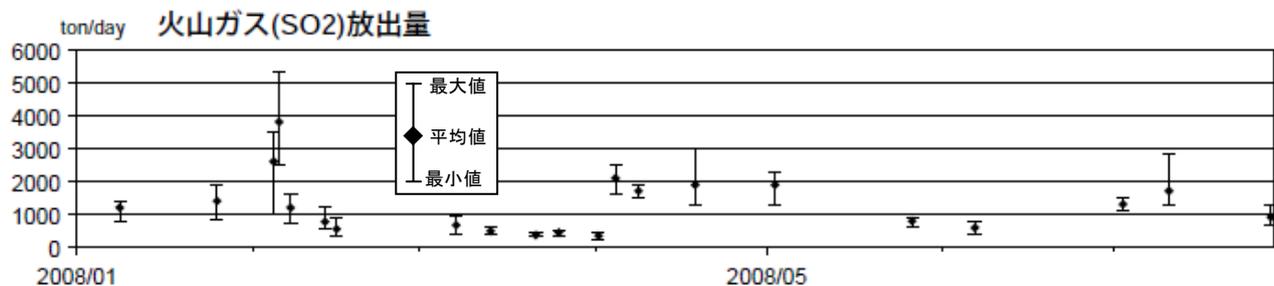


図3 桜島 二酸化硫黄の放出量変化図 2008年1月～2008年7月28日

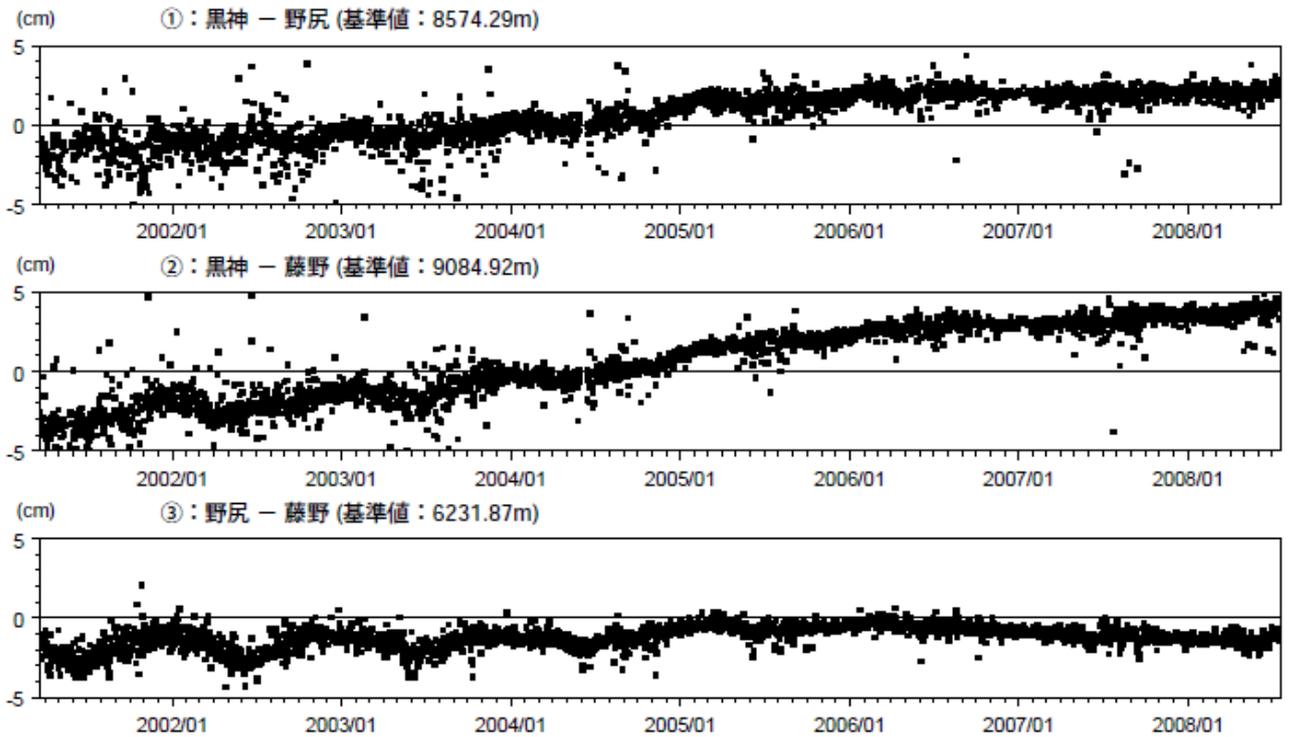


図 4 桜島 GPS 連続観測による長期の基線長変化(2001 年 3 月～2008 年 7 月 27 日)  
GPS 連続観測では、山体の膨張を示すような顕著な地殻変動は認められていません。

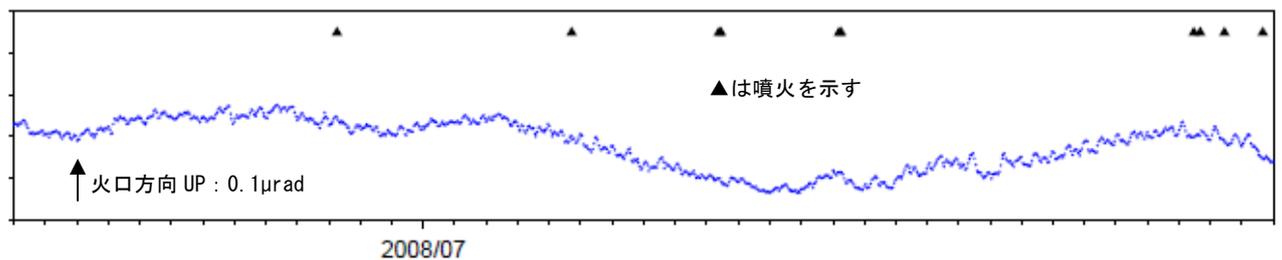


図 5 有村観測坑道の水管傾斜計\*の変化図(2008 年 6 月 18 日～2008 年 7 月 27 日)  
\* 大隅河川国道事務所提供

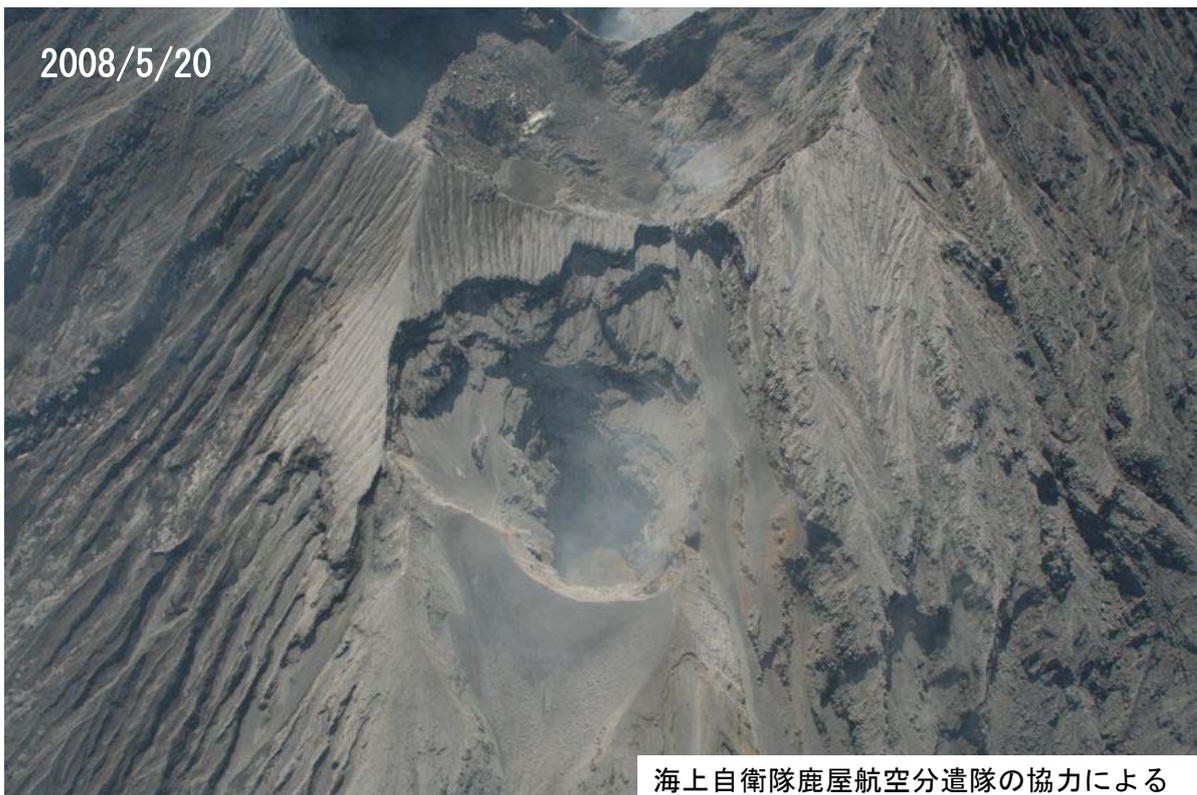


図6 桜島 南東方向から撮影した昭和火口

(上：2008年7月28日撮影 下：2008年5月20日撮影)

本日、国土交通省九州地方整備局の協力を得て実施した上空からの観測では、火口の形状に特段の変化は見られませんでした。



図 7 桜島 降灰の分布状況図

加治木町、霧島市等の桜島の北方向の広い範囲に降灰が分布し、熊本県では球磨村まで降灰がありました。

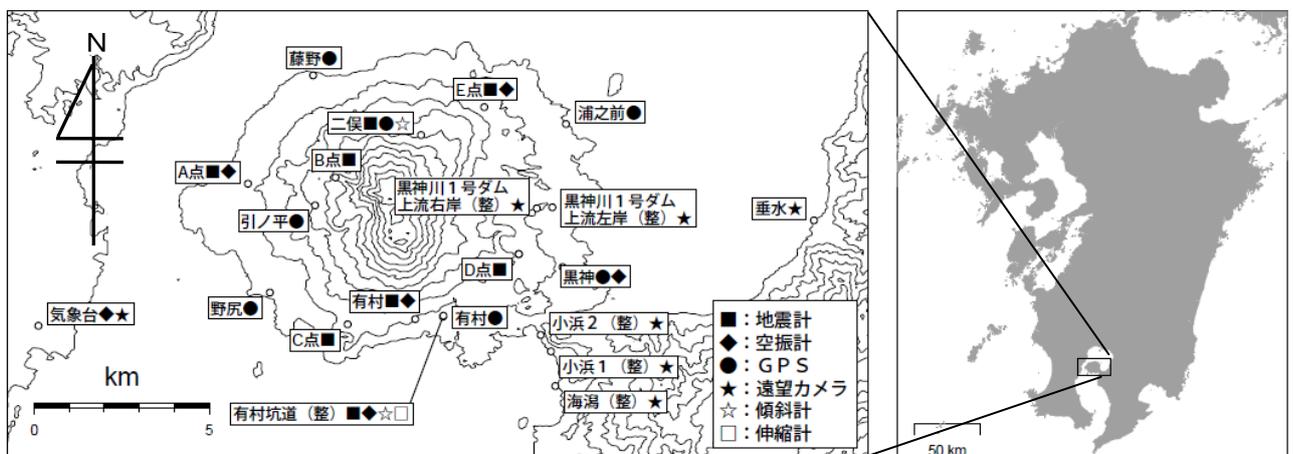


図 8 桜島 観測点配置図